

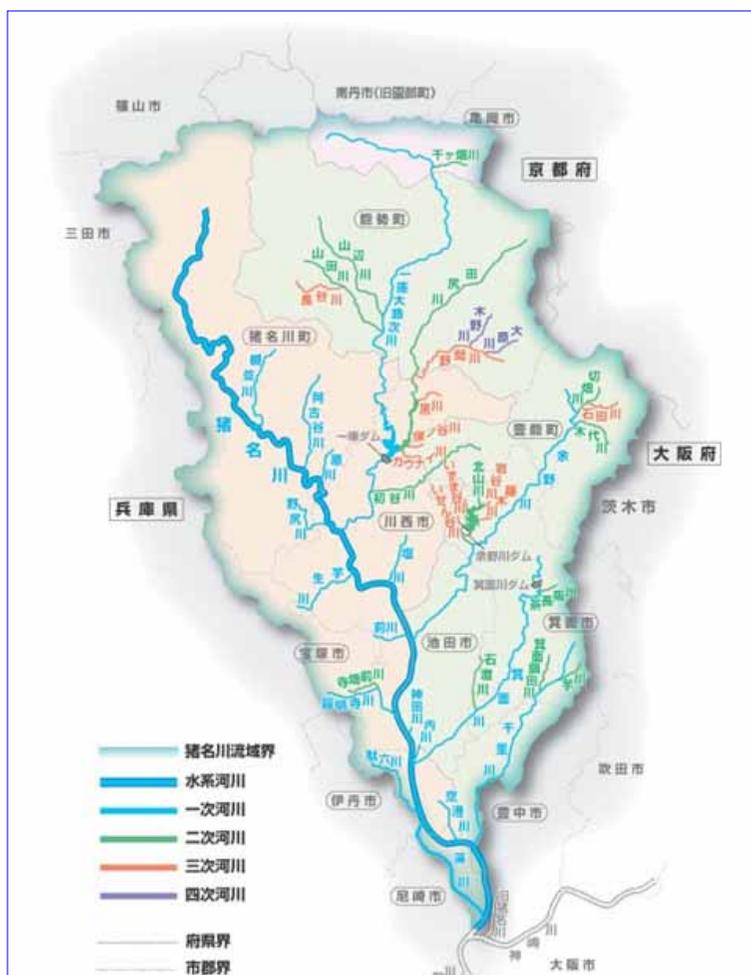
猪名川における外来植物対策について

近畿地方整備局 猪名川河川事務所

1. 事業の概要

猪名川流域の概要

- ・猪名川は、源を兵庫県猪名川町大野山に発し、渓谷を南下し、途中、一庫大路次川、余野川、千里川などの支川を合わせながら神崎川に合流する。
- ・流域には、川西市、池田市・宝塚市・箕面市・伊丹市・豊中市・尼崎市など多くの都市があり、人口密度が大変高く、資産も集中している。
- ・猪名川は都市地域の貴重な自然環境として多くの人々に利用されている。



流域面積 383 km^2 (山地 287 km^2 、平地 96 km^2)
(大阪・兵庫・京都の2府1県)

幹線流路延長: 43 km

流域内人口: 約180万人

直轄区間: 猪名川12.6km、藻川4.8km

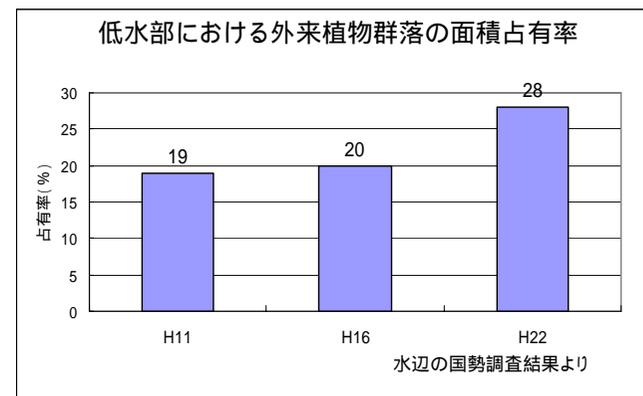
2. 猪名川の自然再生事業(現状と自然再生計画)

現状と自然再生計画

(猪名川の現状)

猪名川は流域内人口が約180万人で、東西の拠点を結ぶ交通機関が集中し、また大小約6,000工場が立地しており、流域内の資産密度、人口密度は著しく高い典型的な都市河川である。猪名川は、都市に残された貴重な憩いの自然空間として、散策、レクリエーションなど年間約206万人に利用されている。(平成21年度空間利用実態調査より)

一方、猪名川における植物全確認種数の40%以上が外来種(平成22年度河川水辺の国勢調査より)であり、また、外来種が優占する群落面積割合も30%程度(全国の一級河川の平均は17%)で、現状のままでは多くの在来種が駆逐される可能性が心配されることから、沿川住民も対策に乗り出している。



(自然再生計画の策定)

学識者からなる「猪名川自然環境委員会」により、「かつて猪名川に存在した“多様な生物がすむ身近な河川環境”の回復」を自然再生目標とする「猪名川自然再生計画」が平成21年3月に策定された。

この計画に基づき、「河原および水陸移行帯の再生」、「河川縦断方向の連続性回復」の事業が進められている。

3. 猪名川の自然再生事業(主な外来植物)

(主な外来植物)

アレチウリ(特定)



オオブタクサ(要注意)



セイトカアワダチソウ(要注意)



キクイモ(要注意)



4. 猪名川の自然再生事業(主な在来植物)

(主な在来植物)

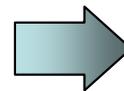
カワラナデシコ



カワラマツバ



礫河原再生(整備前 平成21年10月)



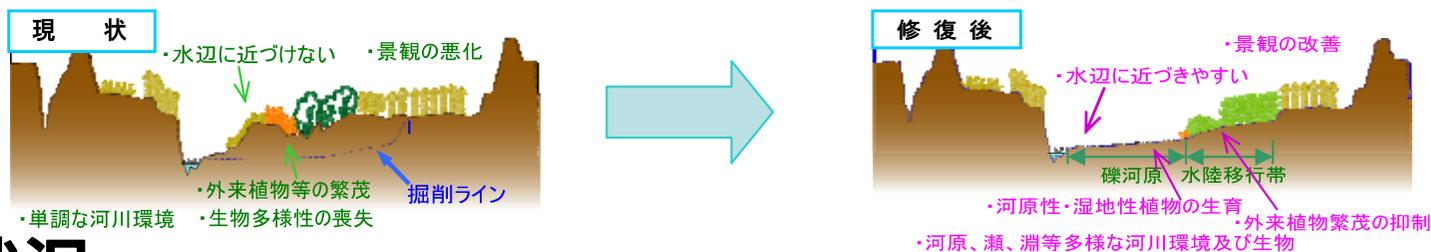
オギ群落と礫河原再生状況(平成24年10月)



5. 猪名川の自然再生事業(目的と整備状況)

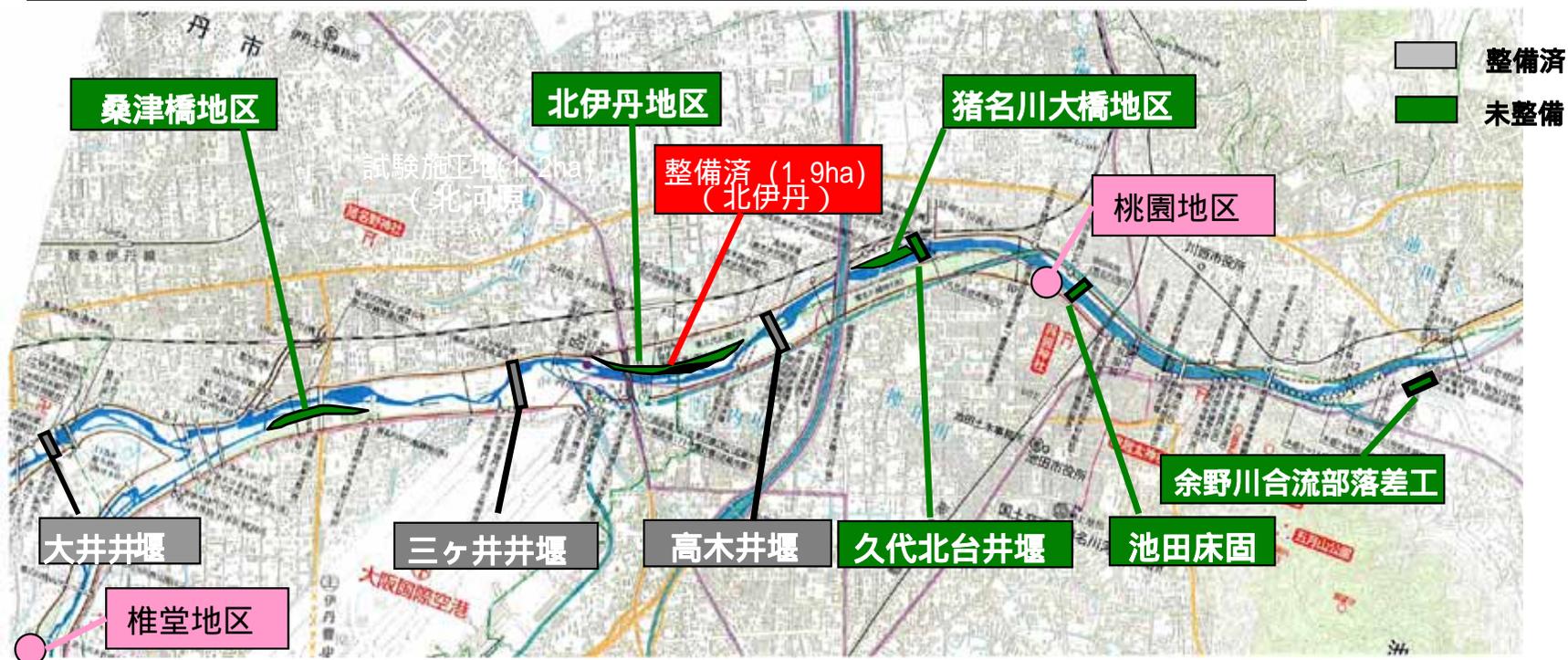
目的

冠水頻度を上げることで外来種を抑制し、生物の多様性を図る



整備状況

河原および水陸移行帯の再生 約 8 ha (整備済 1.9ha)



6. 猪名川の自然再生事業(地域住民との連携)

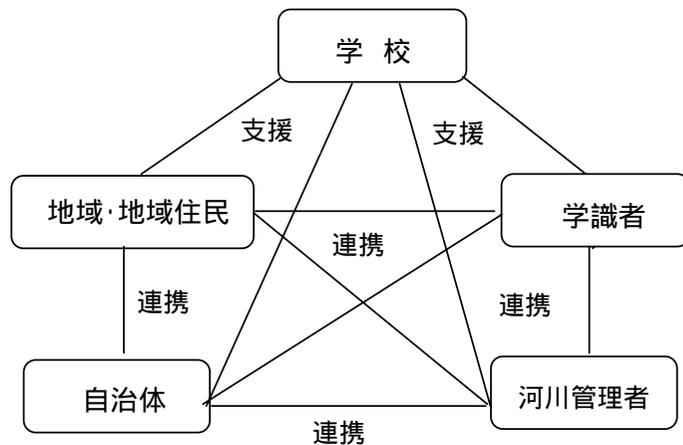
(地域住民との連携)

「河原および水陸移行帯の再生」の事業箇所において、平成21年度から自然再生の一環として地域住民が参画した外来植物対策を実施しており、現在も継続している。

この活動により、外来植物の繁茂が抑制され、さらには本来あるべき猪名川の河原環境の維持に寄与している。

今後さらなる活動拡大のために、活動指針となる「猪名川の外来植物対策マニュアル」を作成し、正しい知識を身につけた活動の拡大、および指導者の育成や学校活動としての参加を促すこととしている。

地域連携(パートナーシップ)計画
(猪名川自然再生計画より)



パートナーシップの枠組み

「猪名川の外来植物対策マニュアル案」
(平成23年3月策定)



6. 猪名川の自然再生事業(地域住民との連携)

(市民による外来植物種対策)

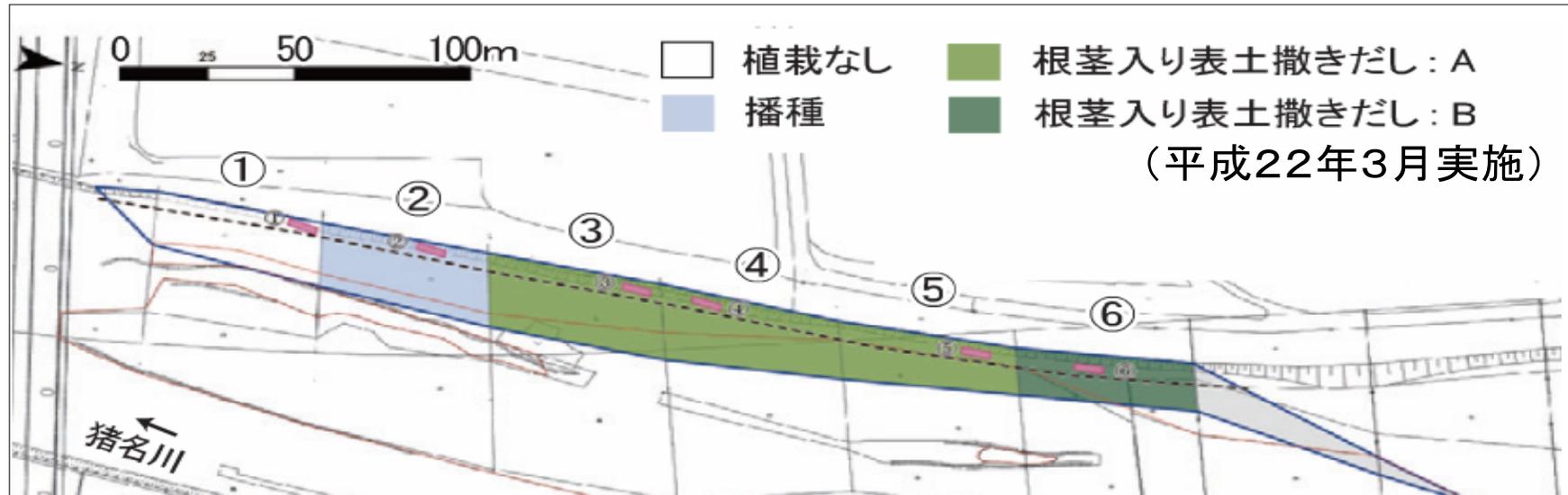
- ・市民団体が中心となり、自主的な外来植物対策が実施されている。
- ・北伊丹地区において、平成22年度に合計8回延べ73名、平成23年度には合計7回延べ34名が外来種の抜き取り等を行っている。
- ・平成23年度には、椎堂地区において「外来植物抜き取り大作戦」を2回実施し、延べ55名が外来種の抜き取り等を行った。

北伊丹地区 外来種抜き取り作業実施状況



北伊丹地区 レキ河原再生事例

オギの植栽：造成裸地に、外来植物よりも先に自然植生を復元させるため実施



根茎入り表土撒きだし：A (2倍希釈)

根茎を含んだ土(オギ群落の表土。深さ1mまでの土)と、その同量の土根茎を含まない土)を混ぜ合わせて撒きだしたもの。

根茎入り表土撒きだし：B (3倍希釈)

根茎を含んだ土と、その2倍量の土を混ぜ合わせて撒きだしたもの。



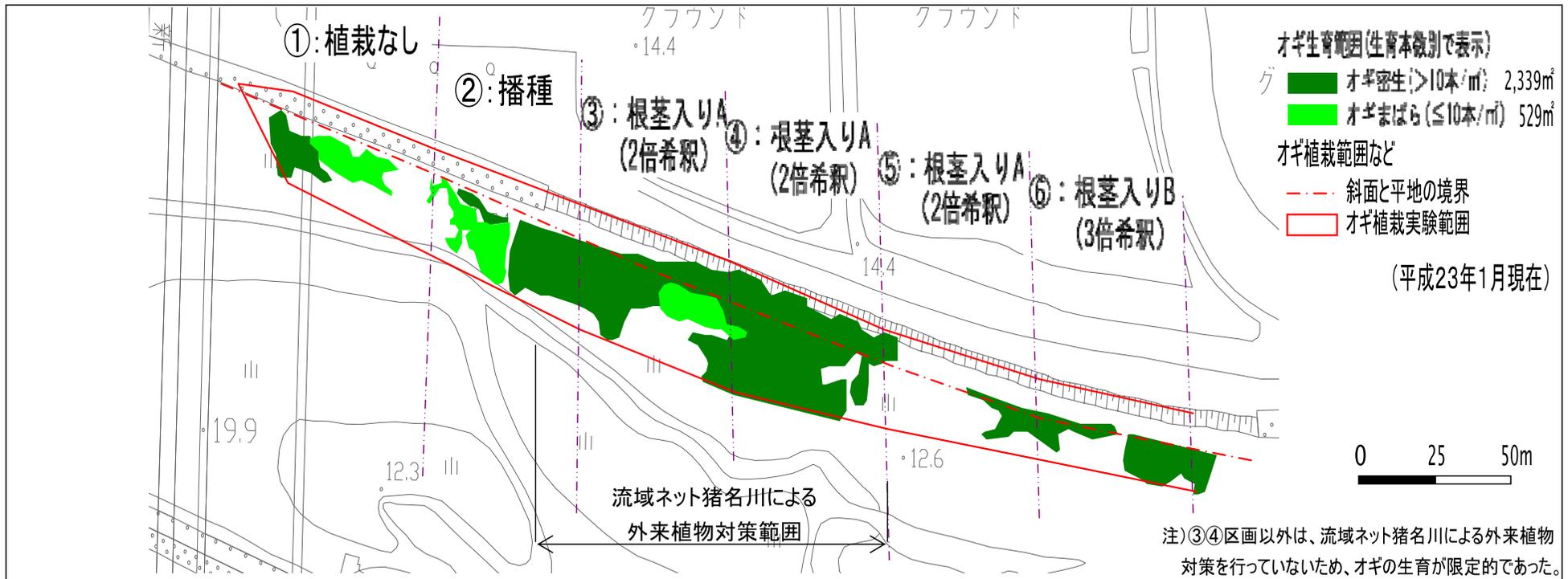
市民による抜き取り継続： 外来植物が繁茂しても対策を続けることがオギの生育の手助けに！

外来種を抜き取った結果、オギ原再生効果が確認できた



抜き取り範囲とオギの繁茂状況

(平成22年11月)



6 . 猪名川の自然再生事業 (地域住民との連携)

椎堂地区 外来植物抜き取り大作戦 実施状況
(平成23年6月26日及び9月25日)



6. 猪名川の自然再生事業(地域住民との連携)

平成24年度 取り組み状況

北伊丹地区実施状況(10月21日 11人)



キクイモ抜き取り状況



アレチハナガサ抜き取り状況

桃園地区(右岸10.3kp付近)実施状況(10月10日から19日の間 延べ15人)



アレチウリ繁茂状況



アレチウリ抜き取り後



集積状況(ゴミ袋約70袋)

7. 今後の課題

活動の継続

- ・ 対策の必要性等について広報を行い、参画者の活性化を図る必要がある。
- ・ 更なる地域住民との連携強化を図る必要がある。

後継者育成

- ・ マニュアルを活用した自然学習会等、次世代につなげる活動を検討し、後継者育成を図る必要がある。

対象地区広範囲化への対応

- ・ 自然環境への意識向上を促し、地域住民・団体等の参画者拡大を図る必要がある。